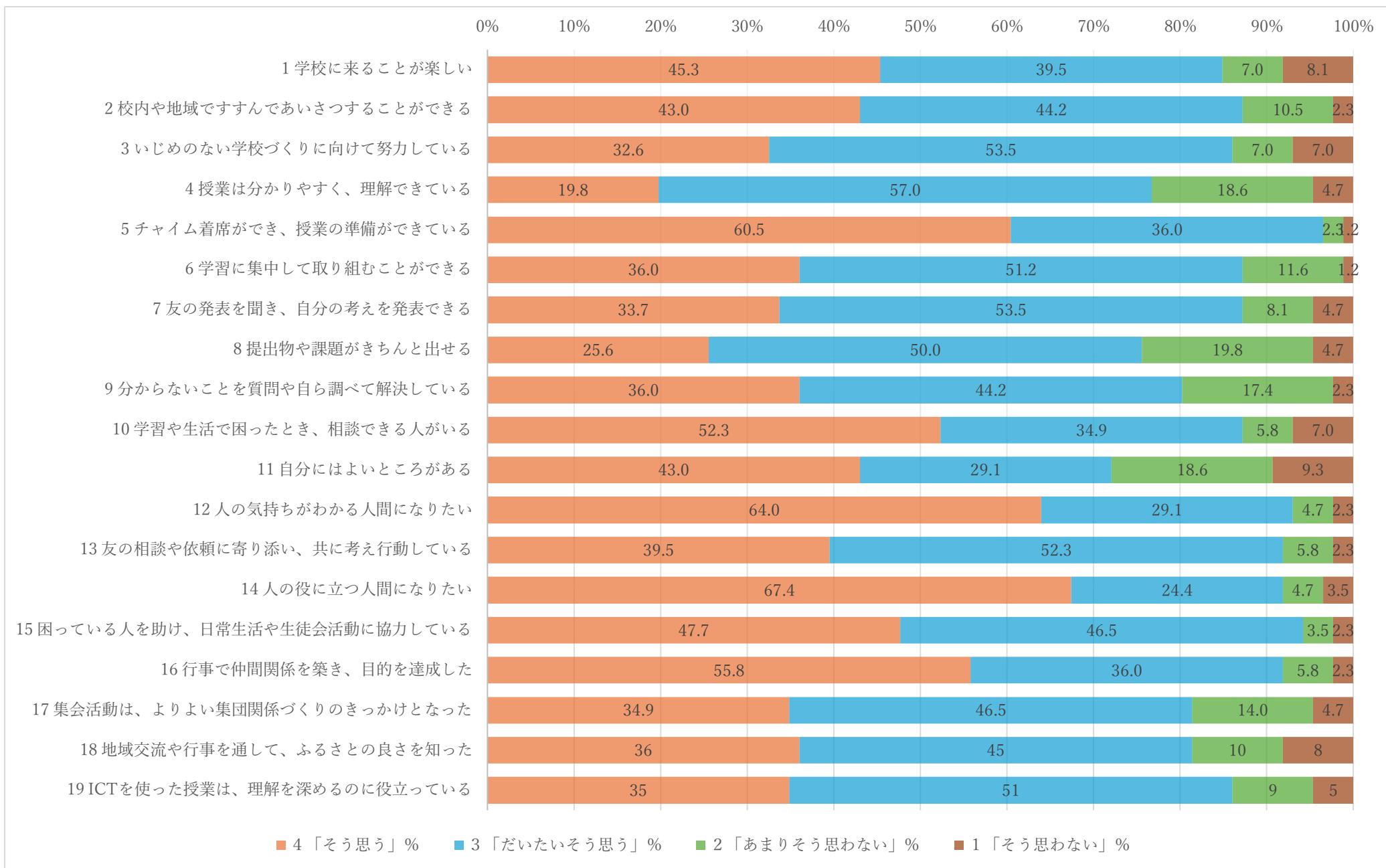


学校自己評価アンケート結果【生徒】



学校自己評価アンケート考察【生徒】

【1 学校に来ることが楽しい】 肯定的回答（「そう思う」「だいたいそう思う」）：約85%、否定的回答（「あまりそう思わない」「そう思わない」）：約15% 約85%の生徒が「学校に来ることが楽しい」と肯定的に回答しており、学校生活全体に対する満足感がうかがえます。一方で、約15%の生徒は十分に楽しさを感じていない状況も見られました。今後は、更に多くの生徒がより充実した学校生活を送れるよう、教育活動の工夫を重ねてまいります。

【2 校内や地域で進んであいさつができる】 肯定的回答：約87% 否定的回答：約13%

校内や地域で進んであいさつができる生徒は約87%と高い割合でした。日常的な指導の成果が表れている一方、地域との関わりの中でも自然にあいさつできるよう、今後も継続した取組を進めてまいります。

【4 授業が分かりやすい】 肯定的回答：約77% 否定的回答：約23% / 【9 分からないことを質問や自ら調べて解決している】 肯定的回答：約80% 否定的回答：約20% 授業が分かりやすいと感じている生徒は約77%ですが、理解に不安を感じている生徒も一定数います。そのため、今後も一人のひとりの実状に合わせた指導方法を工夫していきます。また、分からぬことを自分で質問し、調べて解決するなど、主体的に学習に取り組む生徒は約80%にのぼります。今後も学習の目的や見通しを明確にし、生徒の意欲を高める授業づくりを進めていきます。

【8 提出物や課題がきちんと出せる】 肯定的回答：約76% 否定的回答：約24%

家庭学習に前向きに取り組んでいる生徒が一定数見られます。一方で取組に差もあることから、学習習慣の定着に向けて、家庭と連携した支援を継続してまいります。

【10 学習や生活で困ったとき、相談できる人がいる】 肯定的回答：約87% 否定的回答：約13%

学習や生活で困ったときに相談できる人がいると回答した生徒は約87%でした。安心して気持ちを表出できる学級・学校づくりを今後も大切にしてまいります。

【11 自分には良いところがある】 肯定的回答：約72% 否定的回答：約28%

自分には良いところがあると感じている生徒は約72%でした。自己理解が進んでいる様子がうかがえますが、自信を持てていない生徒もいるため、今後も生徒の良さを認め、自覚を促す関わりを大切にしてまいります。

【15 困っている人を助け、日常生活や生徒会活動に協力している】 肯定的回答：約94% 否定的回答：約6%

困っている人を助け、日常生活や生徒会活動に協力している生徒は約94%と非常に高い割合でした。互いに支え合う意識が育まれており、今後も学校教育目標である「思いやりの心」を大切にした指導を継続してまいります。

【19 ICTを使った授業は、理解を深めるのに役立っている】 肯定的回答：約86% 否定的回答：約14%

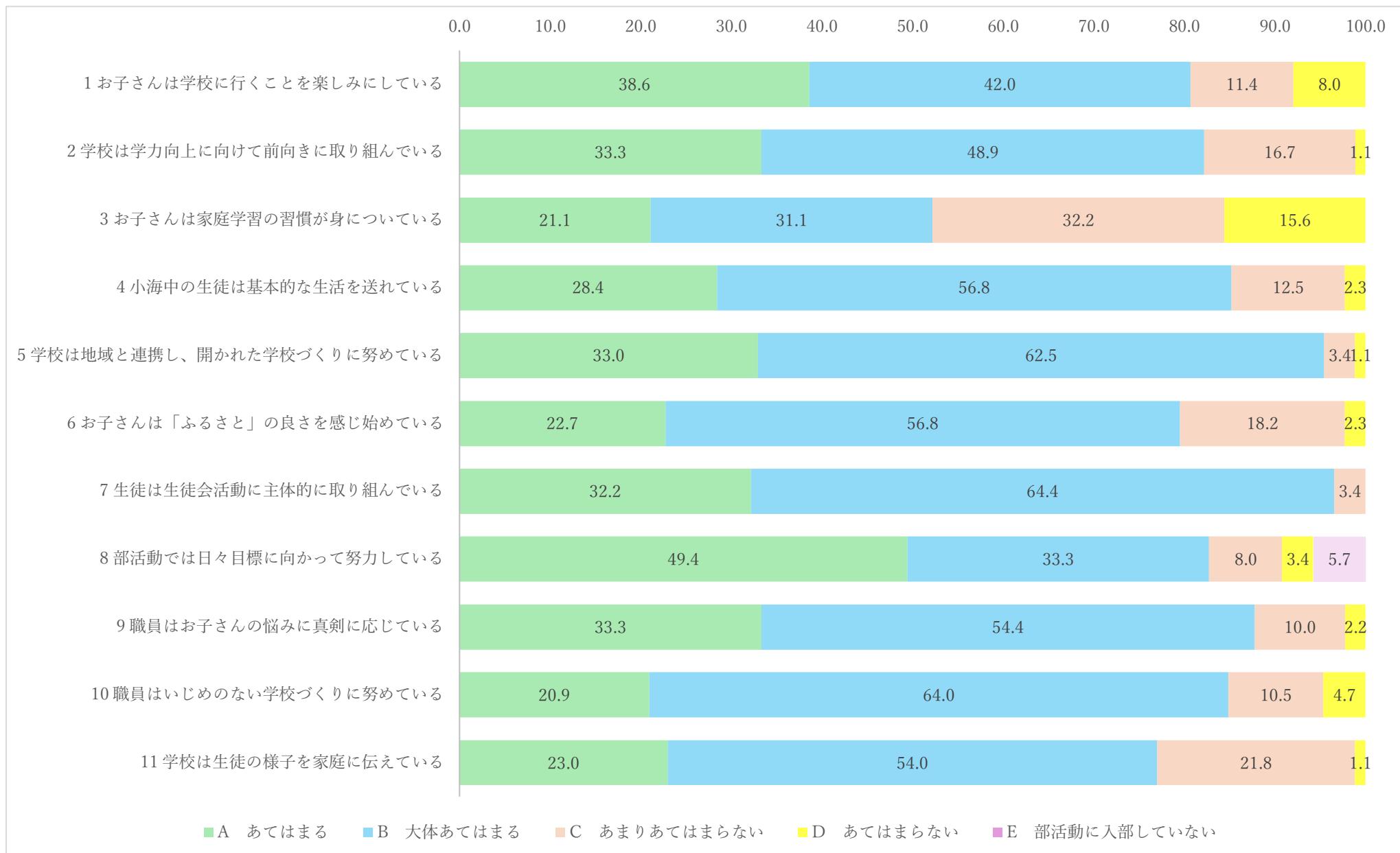
ICTを使った授業が理解の深化に役立っていると感じている生徒は約86%でした。今後も効果的なICT活用を進めてまいります。

自由記述（主な傾向）

「自習の時間を増やしてほしい」「友達と関わる活動を増やしてほしい」など、学習時間や友人関係を重視する声が見られました。これらの意見を今後の教育活動の参考にしてまいります。

本アンケート結果を踏まえ、今後も生徒一人ひとりが安心して充実した学校生活を送れるよう、教育活動の充実に努めてまいります。ご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。

学校自己評価アンケート結果【保護者】



学校自己評価アンケート考察【保護者】

【1 お子さんは学校に行くことを楽しみにしている】 肯定的回答 81% 否定的回答 19%

多くの保護者が肯定的に捉えており、学校生活全体が概ね安定している様子がうかがえます。日々の授業や行事、友人関係の中で、生徒が安心して学校生活を送れていることが成果として表れています。一方で、十分に楽しめていないと感じている家庭も一定数あることから、個々の生徒の気持ちを丁寧に把握し、より安心感のある学校づくりを進めてまいります。

【2 学校は学力向上に向けて前向きに取り組んでいる】 肯定的回答 82% 否定的回答 18%

学校の学習面での取組については、概ね理解と評価を得ている結果となっています。授業改善や学習支援に対する日常的な取組が、ある程度保護者に伝わっていると考えられます。今後は、具体的な学習の工夫や成果を、より分かりやすく発信することで、学校の取組への理解をさらに深めていきます。

【3 お子さんは家庭学習の習慣が身についている】 肯定的回答 52% 否定的回答 48%

他の設問と比べると、肯定的な回答の割合がやや低く、家庭学習の定着が課題として見られます。家庭ごとの状況や学年差が影響していると考えられますが、学校としても家庭学習の意義や取り組み方を丁寧に示す必要があります。今後は、無理なく継続できる学習方法の提示や、家庭と連携した声かけを工夫していきます。

【7 職員はいじめのない学校づくりに努めている】 肯定的回答 85% 否定的回答 15%

いじめ防止に向けた取組については、一定の評価が得られており、学校の姿勢は概ね理解されていると考えられます。一方で、目に見えにくい問題への不安を感じる保護者もいることがうかがえます。今後も、未然防止と早期対応を大切にし、安心して過ごせる学校づくりを継続します。

【11 学校は生徒の様子を家庭に伝えている】 肯定的回答 77% 否定的回答 23%

多くの保護者から一定の評価を得ている一方で、十分とは感じられない面も見受けられます。伝達手段によって差が生じやすい点を踏まえ、学校全体として情報発信の在り方を見直していく必要があります。今後は、日常の様子や成長がより伝わるよう、継続的で分かりやすい情報発信の工夫に努めます。

【自由記述欄】

学校の日常的な取組や教職員の関わりに対する感謝や評価の声が多く寄せられており、学校への信頼が一定程度築かれていることがうかがえます。特に、教職員の丁寧な対応や、生徒一人一人を大切にしようとする姿勢について、肯定的に受け止められている点は成果といえます。一方で、部活動地域移行についての情報発信、家庭学習のあり方、生徒への関わり方について、改善を求める意見も見されました。これらの意見は、学校に対する期待の表れであり、今後の学校運営を見直す上で重要な示唆を与えるものと受け止めています。学校としては、寄せられた意見を真摯に受け止め、日々の教育活動や情報発信の工夫に生かしていきます。今後も、保護者のみなさんとの対話を大切にしながら、より信頼される学校づくりに取り組んでいきます。

【学校全体としての総括】

今回の学校自己評価アンケートから、学校生活や学習面について一定の信頼と評価を得ていることが確認できました。一方で、家庭学習の定着や情報発信のあり方など、改善に向けて取り組むべき課題も明らかになっています。今後は、保護者のみなさんとの連携をより一層大切にしながら、生徒一人一人が安心して学び、成長できる学校づくりを進めていきます。